

令和二年度滋賀県立米原高等学校特色選抜

令二 小論文

問題用紙

注意

- * 答えは、解答用紙の決められた欄に縦書きで書きなさい。
- * 文字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- * 問題用紙、解答用紙はそれぞれ一枚です。
- * 原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受 検 番 号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

武道やスポーツ、あるいはピアノなど、ある種の「型」を修練した人というのは、ひとつのコツをつかんでいるといえる。つまり、物事が上達するための、大きな宝を得ているのだ。そしてこの考え方をほかのこと全般に応用してゆけば、上達というものに対して恐れはなくなる。

わからない、できないことがあったとしよう。しかし、そういう「型」の訓練を積んできた人間は、ものごとには必ず基本があるはずだと考える。そして、基本を徹底的に反復して練習し、自分のものとするだろう。基本を自分のものにしてしまえば、もう応用が次々ときくようになる。「いまはできないかもしれない。しかし、基本さえしっかり身につければ、やがてはできるのだ」と、落ち着いたメンタリテイで、一見退屈な練習に臨むことができるのである。それは安心感であり、自信でもある。その後、たとえば違う世界のことにも挑戦したとしても、簡単に気持ちが切れないですむ。逆に、それがない人は考えてしまう。自分は結局できるようにならないのではないか。いま要求されていることはおかしいのではないか。そのような疑いは非常に無駄で、精神の疲労を起す結果にしかつながらない。

私が強調したいのは、ある特定の「型」を見につけるような地道なトレーニングを、ひとつでもきっちり行ってきた人というのは、「退屈力」がそなわっているということだ。退屈に耐えられる力という意味だけではない。退屈なことを繰り返すことの意味を知っているのだ。

昔、しつかり野球をやっていて、バットの素振りや、千本ノックの経験がある学生がいたとする。あるいは剣道をやっていて、竹刀しなの素振りの経験がある学生がいたとする。そうすると、そういう学生に読書のことを教えるのは、経験のない学生に教えるのより、比較的簡単である。それまでまったく本を読んでこなかったとしても、反復練習するメンタリテイが身についているからだ。それを思い出させて「要するに、そのときの心のあり方というのを、ここで応用すればいいんだよ」と言えば、「そうか、もう一回素振りなんだ」と、わかってくれる。語学の学習なら、手を動かして、声を出して単語をおぼえなくてはいけない。「それは、走りこみや素振りと一緒になんだよ」と言えば、「なるほど」と理解してくれるのだ。

自分は野球には打ち込んできたけれど、勉強はからつきしですと言う学生もいる。あまりに領域が違いすぎると、乗り越えるのはむずかしいと感じるかもしれない。だけど私は、その学生に言う。「そこで得たものは野球の技術だっただけではなく、『退屈力』だったんだよ」と。「素振りがいつでも面白かったわけじゃないでしょう。でも、続けているうち、面白さを感じたこともあったでしょう。そして、技術を自分のものにできた充実感があったでしょう。」と。その学生には、すでに、上達するための「力」がそなわっているのだ。だから、勇気を持って取り組んで大丈夫だと、私も自信を持って背中を押してやることのできるのだ。

(齋藤 孝『退屈力』による。)

問 傍線部について、筆者が述べている「退屈力」がそなわると、どのようなことができるようになるでしょうか。あなたの考えを、具体例をあげて、三六〇字以上四〇〇字以内で書きなさい。